

履正社高校の寺島成輝投手が ドラフト1位指名でプロの道へ



同校の建学の精神である校訓「履正不異・勤労愛好・報本反始」の碑の前でピッチングフォームを披露してもらった。U18(18歳以下)日本代表としてアジア選手権優勝にも貢献。183センチ、88キロ。左投げ左打ち。

夏の甲子園を沸かせた高校生の大型左腕が2016年プロ野球ドラフト会議で1位指名を受けた。豊中にある履正社高校のエース・寺島成輝(なるき)選手だ。指名した球団は同校野球部の先輩である山田哲人選手と同じ東京ヤクルトスワローズ。大きな期待を背負ってプロの道へ飛び込む18歳に話を聞いた。

甲子園でも魅せた奪三振理想は型にはまらない投手

寺島選手のストレートは最速150km。伸びのあるストレートゆえにバッターの体感速度はさらに上回るという。制球にも優れ、夏の甲子園大会1回戦の高川学園戦で大会は11三振を奪った。2回戦では優勝候補の一つ横浜高校を完投で破り、3回戦で常総学院に敗れはしたが、この試合でも5者連続三振を見せた。「あの試合は負けている

状況だったので、キャッチャーと『ここからは、楽しむしか無いで』と話していた。ひたすら自分のやりたいように投げて、気持ちもラクだったので、あの結果が出たと思います」。

自身のピッチングスタイルを尋ねると「基本的にはストレートで押していくんですけど、どんなスタイルでもいけるというか。変化球ピッチャーと言われてもいいし、スピードピッチャーと言われてもいい。僕は変則投手ではないのですが、そう言われても全然構わない。型にはまらない、なんでもできる投手をイメージしています」と語る。

野球少年たちにメッセージ 小・中学時代は技術を磨け!

高槻で生まれた寺島選手が野球を始めたのは小学1年生の時。当時住んでいた東京・国分寺の少年野球チームがスタートだった。小学4年の時に大阪に戻り、茨

木東中の3年夏に「箕面ボーイズ」で世界少年野球大会に出場して優勝。高校は自宅から通える強豪の履正社を選んだ。

北摂の野球少年へのアドバイスを尋ねると「小学生、中学生の間は、打つ、投げるを高めることを意識してほしい。走り込みは高校に入ってからでもなんぼでもできると思うので。小中の間は、とにかく思いっきり投げて、思いっきり飛ばして、思いっきり走って、チームの中でどれも一番になるように、必死でやってほしいですね」。

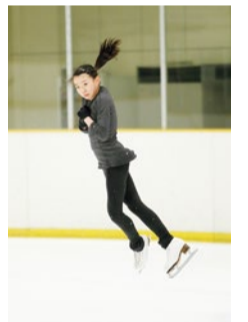
球団から与えられる背番号は将来への期待が込められたエースナンバー「18」。高卒ながら即戦力として期待されているのがわかる。「自分に自信を持つことは絶対に必要。プロに入ってすぐに通用するかどうかは、やってみないとわからないですが、野球をやっている以上は「楽しむ」という気持ちを忘れずにやりたい。まあ、最初は苦しみとありますが…。それも含めて楽しみです」と寺島選手。プロのバッターから三振を奪う姿を早く見たいものだ。



ほぼ毎日4〜6時間のリンク練習にバレエなどのレッスン、そして塾や家庭での学習と大忙し。友達のおしゃべりが息抜きだ。

ジュニアフィギュアスケート グランプリファイナルに出場 14歳 紀平梨花選手が4位

12月8日〜9日にフランスのマルセイユで行われたフィギュアスケートのジュニアグランプリファイナル選手権(GF)に、西宮市出身の中学3年生、紀平梨花選手が出場。ショートプログラム5位から巻き返しフリープログラム(FP)では3位、総合4位と健闘した。それに先立って11月中旬、練習拠点である関大たかつきアイスアリーナで話を聞いた。



バレエとダンスの個人レッスンを数カ月前からスタート。ジャンプだけではなく、表現力も磨いて、「シニアにあがったときに観客を魅了する選手になりたい」。

初のGFで4位 希少な大技が持ち味

GFは世界のトップ6選手のみが出場でき、今回はうち3名が日本選手で、紀平選手のほか坂本花織選手(16歳)、本田真凜選手(15歳)とも関西出身だ。同世代ということもあり、ライバルとしてメディアに取り上げられることが多いが、「二人とも友達。ライバルとは少し違う。みんなレベルは高いし、すごく刺激になるけど、あくまでも自分に勝つことが目標」と話す。紀平選手は2016年のチェコ大会で2位入賞、さらにスロベニア大会でトリプルアクセルを決めて優勝し、今

回のグランプリファイナル進出につながった。これまで公式試合でトリプルアクセルを成功させた女子選手は世界で他に6人しかいない。紀平選手は中学1年生で取り組み始め、わずか2、3カ月で飛べるようになったという。

幼少期に源流あり 類まれなる運動神経

取材時に同じリンクで練習していた10人ほどのシニア・ジュニアの選手達と比べてみても、紀平選手は身長149cmと小柄で体の線も細い。しかし、繰り出すジャンプの迫力はシニア

にも劣らない。その体力はどこから来るのか。紀平選手の母親によると、幼少期から身体能力は高く、通っていた幼稚園の運動会では男児らを抜いて常に1位だったとか。並外れた才能を見出した両親は、バレエやダンス、体操、スミングなど様々な習い事をさせ、フィギュアスケートもそのひとつだった。

3歳のときに家族で神戸のアイスリンクに遊びに行ったことがきっかけで、フィギュアスケートに興味を持ち、5歳より難波の教室に通い始める。その後、更なる技術向上を目指して、小学校5年生から日本のトップ選手、宮原知子選手らを指導する濱田美栄コーチに師事するようになる。

紀平選手の母親は「小さい頃に運動をさせて筋力を身に付けたのが良かったのかも。無理強いせずいろいろやってみたが、フィギュアだけが長続きました。本人はフィギュアが大好き。本人のやる気、意志が一番大切」と話す。

今回の試合では惜しくも着地に失敗したが、FP直前の公式練習では、前人未到のトリプルアクセル+トリプルトゥーループを成功。2018年の平昌五輪には年齢が1カ月足りず、出場資格がないが、「その次の北京五輪までに、ジャンプも表現力ももっと磨いて、万全の準備をして挑みたい」と意欲的に語った。

番号で現在地を特定 大阪府警「現在地認知システム」協力:大阪府警察

携帯電話からの110番通報が年々増加しているが、見知らぬ場所であったり、夜間で景色が見えないために通報者が自分の居る場所がどこなのか分からないケースも少なくない。

大阪府警察では、大阪府下全域で道路標識に番号シールを貼付し、通報場所を検索する「現在地認知システム」を運用している。

このシステムは、道路標識の柱に貼付されたシールの番号(上3桁、下5桁)を110番通報時に伝え、通信指令室の係員が入力すると地図画面に通報場所がピンポイントで表示されるというもの。正確で、かつ迅速に通報場所を特定でき、早期の被害者救援が期待できる。

110番をする際に自分がどこにいるかわからない場合は、近くの道路標識を探して番号を伝え、正確な現在地を知らせよう。



通信指令室からのお願い

〔110番をかける際の注意事項〕

- 110番通報は着信順に接続されています。「すぐ出ない」と判断され、かけ直されますと、さらに時間がかかることとなりますので、切らずにそのままお待ちください。
- 事件・事故の内容、自分のいる場所(わからない場合は上記の道路標識の番号)、目標となる建物等を落着いて教えてください。
- いたずらの110番通報は、犯罪です。緊急な事件・事故の対応に支障を来しますので、絶対にしないでください。
- 緊急でない相談・要望等については、警察相談電話「#9110」や最寄りの警察署・交番へお願いします。
- 自動車運転中の携帯電話の使用は、道路交通法によって禁止され、事故の原因ともなりますので、安全な場所に停車してから通報してください。
- 通報場所や電波状態によっては、隣接する他府県警察本部に接続されることがあります。この場合、110番通報を受理した警察本部から管轄警察本部へ転送しますので、係員の指示に従ってください。
- 110番通報をしていただいた後に警察官から通報内容について、再度お尋ねすることもありますのでしばらく電源を切らないでください。